2015年度
一般社団法人CIEC定時社員総会

議 決 書

2015年8月21日(金)
富山大学
(〒930-8555 富山市五福3190番地)

2015年度一般社団法人CIEC定時社員総会議事録

2015年8月21日下記会場に於いて2015年度一般社団法人CIEC定時社員総会を開催した。
日時：2015年8月21日（金曜日）12:30〜13:45
会場：富山大学五福キャンパス

議決権のある当法人社員総数　885名　（個人会員789名＋団体会員87団体）
総社員の議決権の数　885個
出席社員数（書面議決，委任状による者を含む）　322名
本総会での議決権の総数　322個

定刻に至り，司会進行役の大岩幸太郎理事（大分大学）より，上記のとおり総社員の議決権の数の3分の一に相当する社員の出席で本会は適法に成立したので開会する旨を宣した。次いで議長の選任方法を諮ったところ，井内善臣理事（兵庫県立大学）が議長に，武沢護理事（早稲田大学）が副議長に，皆川雅章理事（札幌学院大学）と小野田哲弥理事（産業能率大学）が資格審査委員にそれぞれ満場一致をもって選任された。

議事運営，採決方法の提案と確認
井内議長より一般社団法人 CIEC 定例総会の運営方法および採決方法について次の通り提案が行われ，確認した。・「議案の提案は，議案1から議案4までまとめて提案し，その後一括して討議する。採決方法は，議案ごとに個別に行ない，書面議決と委任状を含めてすべて出席者の過半数の賛成で議決される。」

第1号議案から第4号議案までの一括提案
宿久副会長より提案が行われた。
第1号議案．2014年度事業報告と2015年度事業計画承認の件
第2号議案．2014年度決算承認の件
第3号議案．2014年度収支差額処分承認の件
第4号議案．2015年度予算承認の件
第2号議案は橘監事から監査報告があった。

討論および意見用紙の紹介と回答
討論に先立ち，宿久副会長より本総会に寄せられた意見用紙3通の紹介と回答が次の通り行われた。
意見用紙のうちの1通に関連して，本学会会員と編集委員会，事務局とのやり取りの中で編集委員会および事務局による不適切な行為（事務局から編集委員会への会員個人情報の不適切な提供，編集委員会からの会員への会費請求）が発生し，その件について会長・事務局長名で当該会員に謝罪を含む回答書を送ったことが説明された。

井内議長より討論は全議案一括して行うことが告げられ討論に移った。討論のまとめは宿久副会長が行なった。

議案1から議案4までの採択
皆川資格審査委員より出席状況，成立状況（本人出席83名，書面出席32名，委任出席207名，合計322名）が報告された。井内議長が採択手順を説明の後，直ちに採択に移った。

第1号議案 2014年度事業報告と2015年度事業計画承認の件は，

書面議決賛成（30），反対（2），保留（0）を加えて，賛成多数で可決された。

第 2 号議案．2014 年度決算承認の件は，
書面議決賛成（31），反対（1），保留（0）を加えて，賛成多数で可決された。

第 3 号議案 2014 年度収支差額処分承認の件は，
書面議決賛成（29），反対（2），保留（1）を加えて，賛成多数で可決された。

第 4 号議案 2015 年度予算承認の件は，
書面議決賛成（29），反対（3），保留（0）を加えて，賛成多数で可決された。

以上の通りの採決結果を以て，第 1 号議案から第 4 号議案まで，異議なくすべて賛成多数で採択された。

閉会
以上をもって本総会における全議案の審議を終了したので，武沢副議長より正副議長の解任と本総会の閉会を宣した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため本議事録を作成し，議長及び出席した会長理事、副会長理事は、前項の議事録に記名押印する。

2015年8月21日

一般社団法人CIEC定時社員総会

議長	井内善臣理事（兵庫県立大学）
副議長	武沢護理事（早稲田大学）
会長理事	熊坂賢次（慶應義塾大学）
副会長理事	鳥居隆司（椙山女学園大学）
副会長理事	長岡　健（法政大学）
副会長理事	宿久　洋(同志社大学)
副会長理事	吉田晴世(大阪教育大学)

2015年度
一般社団法人CIEC定時社員総会

議 案 書

2015年8月21日(金)
富山大学
(〒930-8555 富山市五福3190番地)

【2015年度一般社団法人CIEC定時社員総会　議案】

第1号議案. 2014年度事業報告と2015年度事業計画承認の件 1
第2号議案. 2014年度決算承認の件 5
・貸借対照表 8
・損益計算書 9
・計算書類の注記表 10
・附属明細書 11
・監査報告書 12
第3号議案. 2014年度収支差額処分承認の件 13
第4号議案. 2015年度予算承認の件 14

【資料】

資料1. 2014年度活動報告と2015年度活動方針 17
・専門委員会
・部会
・支部
資料2. CIEC活動報告 25

2015年度一般社団法人CIEC定時社員総会議案書
議案1．2014年度事業報告と2015年度事業計画承認の件

1996年7月に設立されたCIECは，2013年6月から一般社団法人CIECとして，設立以来の目的を引き継ぎながらこの2年間活動してきました。本議案では，2014年度の事業報告と2015年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会活動の報告は，それぞれの委員会や部会報告にゆだね，ここでは全体に関わる2014年度の取り組みの要点と2015年度事業方針について記します。

1.学び，教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIECは2013年6月に一般社団法人CIEC設立総会を開催し，CIECは一般社団法人として活動を続けてまいりました。CIECの法人化によって本学会の理念や事業が変わるものではありませんが，運営・会計・税務を明確にするとともに，外部資金による研究等事業の推進をより一層進めていきたいと考えております。

2014年度には20周年事業委員会を設置し，熊坂会長を委員長とし，いくつかの企画を検討しております。今後，2015年度中に記念シンポジウムを実施するとともに，これを機にCIECのグローバル化に向けて進めていきます。

2.PCカンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2014PCカンファレンス」は，2014年8月8日，9日，10日に札幌学院大学で全国大学生協連との共催のもと741名の参加で開催されました。今回のPCカンファレンスでは，テーマを「『地方』教育の未来を創る」と題して，地方の教育を担っている方々に，ICT利活用の視点を入れながら教育の現状と課題についての情報共有・意見交換の場を提供し，様々な企画を通してその「解決策」を模索しました。まず，CIEC会長（当時）の妹尾堅一郎先生より「“コンピュータ利用教育”を再考する－イノベーション社会における知の変容と多様化－」と題した講演があり，その後，CIEC副会長（当時）の熊坂賢次先生から「地方からの学びのイノベーション」と題した講演が行われました。これらの基調講演を受け，「新しい研究・産業領域におけるコンピュータ利用とその教育」および「地方におけるICT教育と授業活用 －北海道を例として－」という2つのシンポジウムが開催されました。さらに，セミナー，イブニングセッション（交流型・ワークショップ型）が開催されました。分科会では118本（口頭88本，ポスター30本）の発表がありました。

「2015PCカンファレンス」は富山大学にて8月20日，21日，22日に開催されます。全体テーマは「ひと・まなび・かがやき」です。いろいろな分野の“ひと”と交流し、互いに“まなび”合い，光り“かがやく”コンピュータとコミュニケーション技術・技法・技能の活用実践を語り合いましょう（開催概要より抜粋）。

3.みんなが参加できる，成果を共有できる，専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は，研究委員会，会誌編集委員会，広報・ウェブ委員会，国際活動委員会の4つが理事会のもとに置かれています。研究委員会は，自らCIEC研究会の企画実施を担当するとともに，部会等が開催する研究会の調整・管理を行います。2014年度は，第103回から第106回研究会，CIEC春季研究会2015が実施され，「CIEC研究会報告集Vol.6（査読付き）」を刊行しました。会誌編集委員会は，会誌『コンピュータ＆エデュケーション』の編集を担当し37号と38号を刊行しました。広報・ウェブ委員会は従来のネットワーク委員会の役務を引き継ぐとともに，CIECの新ホームページの検討を進めてまいりました。近々，新しいホームページが完成する見込みです。国際活動委員会は，国際活動の企画・運営を担当し，引き続き情報提供をすすめています。

部会は，会員の自発的組織化として始まり，小中高部会，外国語教育研究部会，生協職員部会が研究活動を展開しています。さらなる会員の自主的活動の活性化のために，部会の新設を追求します。

小中高部会は関東，関西，北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめ，PCカンファレンスでセミナーを企画開催するとともに，CIEC研究会を4回実施しました。外国語教育研究部会はPCプレカンファレンス企画を実施しました。生協職員部会は，学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当てPCカンファレンスでセミナーを企画開催しました。

支部はCIECの地域組織で，各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在，支部は北海道と九州の2つが活動しております。2007年度に設立された北海道支部では，2014PCカンファレンスの運営に実行委員として積極的に参画しました。また，「学校の玉手箱」というセミナーを3回実施しました。本年度は，他学会北海道支部との連携企画を計画しています。 2012年に設立された九州支部は，11月に九州PCカンファレンス（立命館アジア太平洋大学）を開催しました。開催テーマは「おんせん県おおいたで考えるグローバル教育」とし，基調講演，シンポジウム，特別報告，分科会を行い盛会のうちに終わりました。本年度11月には，九州PCカンファレンス（琉球大学），北海道PCカンファレンス（北見工業大工）の開催を予定しております。

さらに「外部資金等プロジェクト」は，会員によって構成されるグループ（非会員も可）が何らかの外部資金等を獲得する，あるいは他組織等と連携する，などを通じて学びとコンピュータに関する調査・研究・開発等に取り組む場合に，それを促進する目的で，本会に外部資金等プロジェクト組織を設定することができるようにするものです。今後，これらを活用したプロジェクトの推進が求められます。

4. 個人会員の拡充を図り，団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度786名（2015年4月）となりました。個人会員が1000名規模に達するよう，引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに，PCカンファレンスや研究会などへの未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また団体会員は 団体87（2015年4月）であり，関係の強化については，外部資金等プロジェクト等の枠組みを活用して，今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設など，団体会員とのコラボレーションを追求します。

5. 広報，出版活動と「学会情報」の公開，発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっており，編集委員会によって査読制度も確実に運営されており，年2回の会誌発行を順調にすすめてきました。会誌のJSTAGEでの公開も完了し，最新号を除くすべての既刊号が公開されております。最新号は発行の6か月後に公開されます。

また，ニューズレターについては完全Web化して会員への情報提供をすすめています。CIECホームページも内容の更新を実施しています。近々公開される新ホームページにおいては，今まで以上に各委員会，部会，支部からの情報発信が容易になる予定です。

6. グローバル化と海外交流

近年，高等教育機関ばかりではなく，初等中等教育機関においてもグローバル化の必要性が叫ばれております。単に英語での講義授業の実施や留学生の数を競うのではなく，真に必要な教育のグローバル化について，ICT利活用の観点から考えていきます。

まず，本学会のホームページの英語版を作成し，本学会の活動を国外へ広報します。そのことにより，目的を同じくする海外の機関との交流をはかり，協同での取り組みを進めていきたいと考えております。具体的には，カリフォルニア州立大学(CSU)を中心に運営されているマルチメディア教材の開発共有プロジェクトであり，その運営組織であるMERLOT(Multimedia Educational Resource for Learning and Online Teaching, http://www.merlot.org/)と協力協定を締結し，本学会会員の既存教材利用，本学会会員作成教材の公開などを通した協力を進めていくことを計画しております。さらには，MERLOTのみならず，他の国外組織との協力関係の締結を国際活動委員会と協力の下，本学会執行部として積極的に取り組んでいきたいと考えております。

7.財政基盤の確立，事務局体制と役員選挙のあり方

2011年の会費改定と経費対策の取り組みなどを通じて，財政構造は剰余を残せる状況を回復しておりましたが，本年度は大口団体会員の退会があり，更なる収入増対策を検討する必要が出てまいりました。引き続き個人会員，団体会員の拡大，政府や企業等との共同研究の推進などで収入増対策をすすめるとともに，経費対策をすすめます。社員総会，役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図ります。
CIECの活動収支については厳密な運用管理と定期の会計報告と監査を受け，経費の透明性を確保し，税務当局への報告も明確にしています。

日常的なCIEC活動をすすめるために事務局は，副会長の中から事務局長を選出し，多くの事務を担当しました。2015年度においても引き続き現行の体制を維持し，法人としての事務局活動を進めます。

次回役員選挙については，2014年度社員総会での意見および理事会提案に対するパブリックコメントを踏まえ，

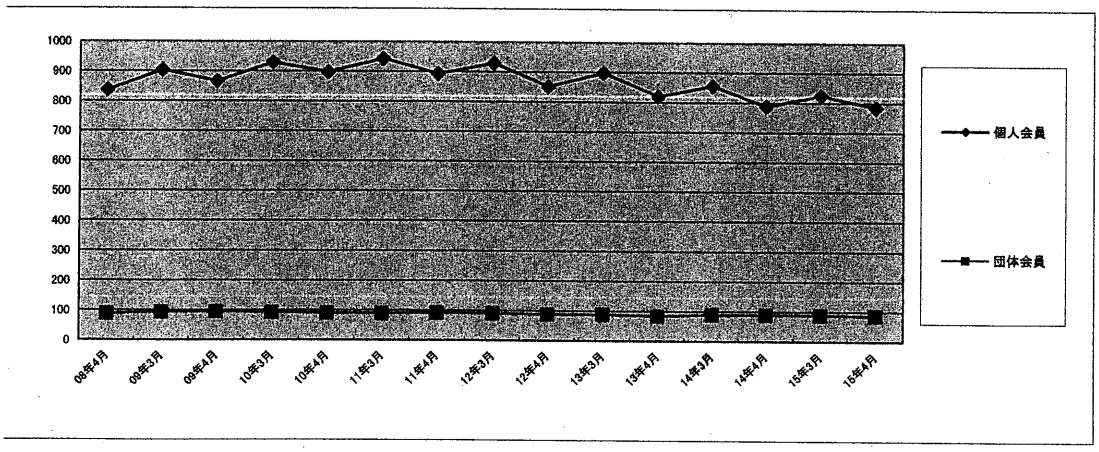
１）＜所信表明＞理事会推薦候補も含めて，すべての候補者が所信表明を行う。
２）＜理事会推薦候補者人数＞理事会推薦候補は，会長・副会長候補も含め１４人以内とする．なお，理事会推薦候補決定においては，専門委員会・部会・支部の推薦を尊重する。
３）＜一般推薦の条件＞現状通り，会員５名以上の推薦を条件とする。

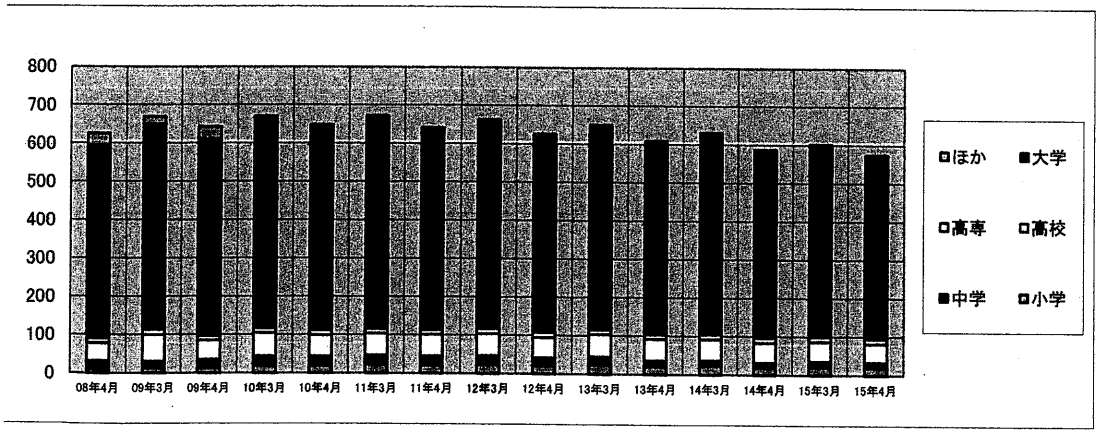
という方針で実施します。なお，今回の一部運用ルール変更に役員選挙規定の改定は必要ないことを申し添えます。

以上

会員状況

	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度
	08年4月	09年3月	09年4月	10年3月	10年4月	11年3月	11年4月	12年3月	12年4月	13年3月	13年4月	14年3月	14年4月	15年3月	15年4月
■ 個人会員															
教員	625	669	643	670	648	672	641	663	626	650	609	631	587	603	575
大学職員	15	16	16	19	17	19	18	19	15	17	15	20	18	20	17
大学院生	41	50	43	57	63	69	64	72	60	67	54	56	49	60	60
学生	5	6	7	7	6	8	8	10	7	9	8	8	8	7	9
生協職員	81	82	83	84	77	78	73	73	63	64	53	54	51	53	51
企業	26	30	27	31	30	33	31	34	29	35	31	33	27	31	28
研究員	7	7	5	7	6	7	7	7	7	6	6	7	7	7	6
その他	38	45	44	56	52	58	52	52	46	51	46	48	43	45	40
合計	838	905	868	931	899	944	894	930	853	899	822	857	790	826	786
■ 団体会員															
企業	24	28	29	31	29	28	30	30	28	29	29	34	33	33	33
生協	58	58	58	55	55	55	56	55	55	55	53	53	53	53	52
大学	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
高校	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	0
法人	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1
合計	89	94	95	93	91	90	92	91	88	89	85	90	89	89	87
■ 教員内訳															
小学	10	12	12	18	19	22	21	23	21	24	21	23	19	21	20
中学	22	18	23	26	24	25	24	24	21	21	15	14	13	15	13
高校	46	70	50	61	56	57	56	57	53	59	56	55	52	51	49
高専	12	13	11	12	12	12	12	13	13	12	12	13	12	13	13
大学	503	536	514	543	527	546	520	538	511	527	498	519	484	496	474
ほか	32	20	33	10	10	10	8	8	7	7	7	7	7	7	6
合計	625	669	643	670	648	672	641	663	626	650	609	631	587	603	575





CIEC 2014年度 財政報告

[概況]

2014年度決算は赤字となりましたが，予算案では187万円の赤字が見込まれていたのに対し，71万円の赤字に留まりました。

経常収益については，個人会員と団体会員のいずれも減少傾向であり，特に，大口の団体会員の減額もあったことから，1,300万円の予算に対して1,242万円と，計画を達成できませんでした（予算対比－57万円，95.6%）。

経常費用については，1,480万円の予算に対して1,307万円に留まりました（予算対比－172万円，88.4%）。J-STAGEでの会誌公開のための追加計上があったものの，事業費・管理費とも三役・理事会の管理のもと各委員会・部会・支部が費用の節約や効率的な支出に努めたことに加え，新Webサイト構築運用費用の支払いが次年度へ持ち越したこともあり支出は予算を下回りました。

（文中の金額は千円以下切り捨て，詳しくは損益計算書をご覧ください）

I. [経常収益について]

1. 会費収益　1,227万円／予算1,220万円

・個人会員会費収入は436万円で予算対比23万円の減（-5.0%），団体会員会費収入は791万円（下記2.3)の研究受託収入を含む）で予算対比31万円の増（4.1%）となりました。2014年度は58名の個人会員と大口会員を含む3団体会員が退会しました。

＜会員状況＞	2015年3月31日		2015年4月1日
個人会員	826	（内，58名退会）	786
団体会員	89	（内，3団体退会）	87

2. 事業収益　14万円／予算79万円

1)教育出版収入　14万円／予算14万円

・著作権使用料，書籍の売却などで14万円の実績です。

2)研究会報告集　0／予算15万円

・会計処理基準を見直し，より適切な科目に変更しました。

3)研究受託収入　0／予算50万円

・会計処理基準を見直し，前年までの大学生協連からの研究受託は団体会員会費に科目変更しました。

4)その他の収益　4千円／予算5千円

・研究会参加費　4千円

3. 財務収益　4千円／予算5千円

・受取利息　4千円

II. [経常費用について]

1. 事業費用　835万円／予算1,016万円

1)会議費用　193万円／予算310万円

・会議費用は，ネット上での開催や他の会議と連動することによって，全般的に大幅に抑えられました。

2)会誌発行費用　　439万円／予算250万円
・Vol.37，Vol.38を発行しました。論文数の増加により，発行費用が増加しました。
・J-STAGEでの会誌公開のためのデータ制作費用154万円を追加計上しました。

3)広報費用　　7万円／予算106万円
・CIEC普及と会員拡大のために案内リーフレットと2013年度活動紹介パネルを作成しました。
・HPの構築は次年度に繰り越します。

4)研究会費用　　44万円／予算93万円
・研究会は第103回～106回および春季研究会の5回を開催し，九州PCカンファレンスには副会長が参加して交流を深めました。

5)調査費用　　4万円／予算10万円
・北海道支部による教科「情報」の調査費用です。調査の結果はPCC北海道で発表されたほか，協力各大学で活用されています。

6)事業活動費用　　60万円／予算62万円
・三役会議費用，CIECTypingClub開発および電子証明書費用，およびJMOOC協賛会員の年会費です。

7)支部活動援助金　　31万円／予算60万円
・北海道支部16万円および九州支部15万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

8)部会活動援助金　　52万円／予算100万円
・外国語教育研究部会17万円，小中高部会26万円，生協職員部会9万円の実績です。3部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

9)教育出版費用　　0／予算5万円
・会誌の抜き刷り代に対して会計処理基準を見直し，より適切な科目に変更しました。

10)周年事業費用　　0／予算0

2. 管理費用　　472万円／予算464万円
1)ネットワーク運営費　　27万円／予算35万円
・Webメンテナンスおよびサーバ SSL対応費用です。

2)事務局通信費　　27万円／予算30万円

3)事務局業務委託費　　300万円／予算300万円

4)事務用品費　　46万円／予算40万円

5)備品購入費　　22万円／予算10万円
・事務局のPCを買い換えました。

6)管理委託費　　27万円／予算20万円
・変更登記費用，会計システム費用，会計顧問料で，27万円の実績となりました。

7)雑費　　19万円／予算20万円
・主に，振込や自動引き落としなどの各種手数料です。

III. ［経常外損益について］

1. 法人税等　　7 万円／予算 7 万円
・法人都民税 7 万円を納めました。

IV. ［当期剰余金について］
・71 万円の赤字となりました。

以上

計 算 書 類

第１　貸借対照表

貸　借　対　照　表

2015年6月30日現在

（単位：円）

科　　目	金　額	科　　目	金　額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	21,605,220	流動負債	7,477,723
現金及び預金	19,418,430	未払金	161,723
有価証券	2,001,258	前受金	7,316,000
未収金	185,532	負債合計	7,477,723
		（純資産の部）	
		その他	14,127,497
		正味財産	14,127,497
		繰越利益剰余金	14,127,497
		純資産合計	14,127,497
資産合計	21,605,220	負債・純資産合計	21,605,220

注）この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型」（2013年1月25日　経済団体連絡会）に準拠して作成しています。

第２　損益計算書

損　益　計　算　書

（自2014年7月1日　至2015年6月30日）

（単位：円）

科　　目	金　額	
（経常損益の部）		
Ⅰ　経常収益		
1　会費収益		
1）　個人会員会費収入	4,368,000	
2）　団体会員会費収入	7,910,000	
	12,278,000	
2　事業収益		
1）　教育出版収入	140,270	
2）　研究会報告集	－	
3）　研究受託収入	－	
4）　その他の収益	4,500	
	144,770	
3　財務収益		
1）　受取利息	4,095	
	4,095	12,426,865
Ⅱ　経常費用		
1　事業費用		
1）　会議費用	1,933,472	
2）　会誌発行費用	4,393,144	
3）　広報費用	76,896	
4）　研究会費用	447,913	
5）　調査費用	49,200	
6）　事業活動費用	608,787	
7）　支部活動援助金	318,640	
8）　部会活動援助金	525,818	
9）　教育出版費用	－	
10）　周年事業費用	－	
	8,353,870	
2　管理費用		
1）　ネットワーク運営費	277,584	
2）　事務局通信費	277,325	
3）　事務局業務委託費	3,000,000	
4）　事務用品費	465,792	
5）　備品購入費	227,378	
6）　管理委託費	277,915	
7）　雑費	196,785	
	4,722,779	13,076,649
経常損失金		649,784
（経常外損益の部）		
Ⅲ　経常外収益		
1　寄付金収入	－	－
Ⅳ　税引前当期損失金		649,784
Ⅴ　法人税等	70,000	70,000
Ⅵ　当期損失金		719,784

注）この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型」（2013年1月25日　経済団体連絡会）に準拠して作成しています。

第３　計算書類の注記表

１.重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

（１）　有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のないもの　　総平均法による原価法

（２）　消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

２.損益計算書に関する注記

（１）法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

３.金融商品に関する注記

（１）金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかなっています。

未収金は、回収期間は１年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、１ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

（２）金融商品の時価等に関する事項

2015年６月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定法方法については（注１）を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　価	差　額
①現金預金	19,418,430	19,418,430	－
②有価証券MMF	2,001,258	2,001,258	－
資産計	21,419,688	21,419,688	－
③前受金	7,316,000	7,316,000	－
負債計	7,316,000	7,316,000	－

（注１）　金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②有価証券MMF

有価証券MMFは短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

③前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1)　現金預金　　（単位：円）

内　　訳		金　額
現金		618,489
当座預金	ゆうちょ銀行	2,074,806
普通預金	りそな銀行	6,612,448
普通預金	中央労働金庫	112,687
定期預金	中央労働金庫	10,000,000
合　　計		19,418,430

(2)　有価証券

内　　訳	金　額
大和ＭＭＦ	2,001,258
合　　計	2,001,258

(3)　前受金

内　　訳	金　額
次年度個人会員会費	3,216,000
次年度団体会員会費	4,100,000
合　　計	7,316,000

2015年7月24日

監査報告

一般社団法人ＣＩＥＣ（コンピュータ利用教育学会）
会長理事　熊坂　賢次 様

監　事　　橘　孝博
監　事　　北村
監　事　　佐藤　和

第３期事業年度の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1.　監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録、重要な決裁文書及び報告書を閲覧しました。

2.　監査の結果

１）事業報告は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。

２）理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

３）当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の議決の内容は相当です。

４）計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3.　追記情報

ありません。

以　上

第 3 号議案　2014 年度収支差額処分承認の件

2014 年度剰余金処分案

Ⅰ	当期未処分剰余金	14,127,497　円
Ⅱ	剰余金処分額	
	周年事業準備金	5,000,000　円
Ⅲ	次年度繰越剰余金	9,127,497　円

当期損失金 719,784 円でしたが、当期首期繰越剰余金 14,847,281 円を加えて、当期未処分剰余金は 14,127,497 円となりました。

上記のとおり、2014 年度未処分剰余金のうち、周年事業準備金として 5,000,000 円 を積み立てて、9,127,497 円を次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 ＣＩＥＣ（コンピュータ利用教育学会）

会 長 理 事　　熊坂　賢次

2015 年度予算計画

I. ［経常収益について］　1,202 万円

1. 会費収益　　総額 1,200 万円
・個人会員会費収入は 450 万円の計画とし，会員の新規加入を促進します。
・団体会員会費収入は 750 万円の計画として，団体会員の新規加入を推進します。
・PC カンファレンスや研究会などを通じて会員獲得を目指します。
・会員獲得について計画化と組織的取り組みを図ります。

2. 事業収益　総額 1 万円
・教育出版収入と雑収入で，1 万円を計上します。

3. 財務収益
・　受取利息で 5 千円を計上します。

II. ［経常費用について］　1,500 万円

1. 事業費用　　総額 1,050 万円

1) 会議費用　260 万円
・総会費用は，20 万円を計上します。
・理事会は，12 月，3 月，6 月の 3 回分 120 万円を計上し，機関会議の軸とします。
・広報・ウェブ委員会は 30 万円を計上します。
・研究委員会は 30 万円を計上します。
・国際活動委員会は 10 万円を計上します。
・会誌編集委員会は 10 月，3 月開催の 2 回分 50 万円を計上します。

2) 会誌発行費用　250 万円
・12 月の 39 号，6 月の 40 号発行を計画します（取材・送料込）。
・JSTAGE への最新号登載費用 10 万円を計上します。

3) 広報費用　125 万円
・案内リーフレットと 2014 年度活動紹介のパネル作成費用として 5 万円を計上します。
・HP 構築運用費として 120 万円を計上します。（前年度より繰越）

4) 研究会費用　総額では 77 万円（研究会 60 万円）
・北海道および九州 PCC 支援のための派遣費用として 14 万円を計上します。
・研究会費用を 60 万円計上します。
・研究会報告集費用は 3 万円を計上します。

5) 調査費用　5 万円
・北海道支部の教科「情報」調査のための費用を 5 万円計上します。

6) 事業活動費用　62 万円
・三役会議は，　4 回開催とし，40 万円計上します。
・諸会費等は，JMOOC 年会費などで，12 万円を計上します。
・事業委託費は 10 万円を計上します。

7) 支部活動援助金　60 万円
・支部活動を保障する予算を 60 万円計上します。北海道支部 24 万円，九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業（地域 PCC，研究会など）を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

8) 部会活動援助金　100 万円
・部会規約に基づき，定めた基準を満たす部会への援助金を 100 万円計上します。外国語教育研究部会

25万円，小中高部会60万円，生協職員部会15万円です。

9)学会表彰事業費用10万円

10)教育出版費用　1万円

11)周年事業費用　100万円
・国際シンポジウム費用として100万円を計上します。

2. 管理費用　　総額450万円
1)ネットワーク運営費　28万円
・年間委託費およびSSL対応費用を計上します。

2)事務局通信費　30万円

3)事務局業務委託費　300万円

4)事務用品費　40万円

5)備品購入費　10万円

6)管理委託費　20万円
・法人会計の税務顧問料およびシステム運用費用として20万円を計上します。

7) 雑費　20万円
・振込，自動引き落とし，各種発行手数料などの費用として20万円を計上します。

8) 予備費　1.7万円

9) 租税公課　3千円

以上

一般社団法人CIEC 2015年度予算案

（単位：円）

科　　目	金　額	
（経常損益の部）		
Ⅰ　経常収益		
1　会費収益		
1）　個人会員会費収入	4,500,000	
2）　団体会員会費収入	7,500,000	
	12,000,000	
2　事業収益		
1）　教育出版収入	10,000	
2）　その他の収益	5,000	
	15,000	
3　財務収益		
1）　受取利息	5,000	
	5,000	12,020,000
Ⅱ　経常費用		
1　事業費用		
1）　会議費用	2,600,000	
2）　会誌発行費用	2,500,000	
3）　広報費用	1,250,000	
4）　研究会費用	770,000	
5）　調査費用	50,000	
6）　事業活動費用	620,000	
7）　支部活動援助金	600,000	
8）　部会活動援助金	1,000,000	
9）　学会表彰事業費用	100,000	
10）　教育出版費用	10,000	
11）　周年事業費用	1,000,000	
	10,500,000	
2　管理費用		
1）　ネットワーク運営費	280,000	
2）　事務局通信費	300,000	
3）　事務局業務委託費	3,000,000	
4）　事務用品費	400,000	
5）　備品購入費	100,000	
6）　管理委託費	200,000	
7）　雑費	200,000	
8）　予備費	17,000	
9）　租税公課	3,000	
	4,500,000	15,000,000
経常損失金		2,980,000

資料1：専門委員会，部会，支部2014年度活動報告と2015年度活動方針

会誌編集委員会

1. 2014年度活動報告

(1)会誌「コンピュータ＆エデュケーション」36号（2014.6.1）の発行
・巻頭INTERVIEW「知的創造を支援するIT技術」
　　山川真一さん（ユサコ株式会社代表取締役社長）に聞く
・特集「来るべきデジタル教科書時代に向けて」：5本
・活用事例：1本
・論文：2本
・本の紹介
・参考：一般投稿（特集，本の紹介を除く）10本（内1本はリジェクト後再投稿，採択：3本，不可：7本）

(2)会誌「コンピュータ＆エデュケーション」37号（2014.12.1）の発行
・巻頭INTERVIEW「グローバル IT 企業と未来を考える」
　　佐分利 ユージンさん（アドビシステムズ株式会社代表取締役社長）に聞く
・特集「タブレット時代とどう向き合うか？」：4本
・2014PCカンファレンス報告
・事例研究（今号よりカテゴリ名称の変更）：2本
・論文：5本
・私の意見：1本
・本の紹介
・参考：一般投稿（特集，私の意見，本の紹介を除く）10本（採択：7本　不可：3本）

(3) 2014PC カンファレンスで編集委員会企画セミナー「『コンピュータ＆エデュケーション』をより良くするために-教育調査データの活用-」を開催した。

(4)編集委員長が交代した。

2. 2015年活動方針

(1)昨年度に引き続き『コンピュータ＆エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指す。「本の紹介」については，従来と同様に理事会メンバーに積極的な投稿を求める。

(2) 2014年度に新投稿ジャンル「事例研究」が掲載された。執筆要項についても「論文」同様としたことに関して，セミナーなどを通じて会員への周知を図っていく。

(3)査読体制の強化と査読の迅速性を目的として，2014 年度に引き続いて理事に査読協力を求めていく。

(4)巻頭インタビューについては，これまでと同様に CIEC 団体会員を中心として対談相手を選定すると同時に，団体会員外企業にも積極的にインタビューを申し込み，CIEC への理解を深めることを目指す。また，各種ソフトウェア・システムを有効に活用している実績のある個人についても，インタビューの対象としていく。

(5)団体会員の協力の下，編集委員会主催の研究会開催も追求する。
学会賞選考委員会に編集委員会として積極的に関わっていく。
2015PCC においても昨年度に引き続き編集委員会企画セミナー「『コンピュータ＆エデュケーション』をより良くするために」を開催する予定である。

広報・ウェブ委員会

1. 2014年度活動報告

CIECでは，2014年度からネットワーク委員会を改組し，広報・ウェブ委員会を設置しました。広報・ウェブ委員会は，CIECの広報全般，特にウェブサイトの運営等に取り組み，会員への情報提供，社会への発信等を強めることを目的とします。

CIECは2013年に一般社団法人となり，学会としての活動を強化していくことをめざしています。その一環として，第1に会員に対する告知・情報提供を強めていくこと，第2に社会への発信，広報を強め，社会的存在感を高めること，第3に会員間の交流等を推進していくことを目的に，広報・ウェブ委員会は活動します。

本委員会の活動内容は，おもな媒体はウェブサイトですので，ウェブの構築・運営を担当します。また，会員への情報提供や委員会等の運営のために運用されているメーリングリスト等の管理を行います。さらにソーシャルメディアの活用など，新たな広報展開をすすめます。そのほか，広く本会の広報全般を担当します。

2014年度は，上記の委員会業務のうち，ウェブサイトリニューアルについて，第1回広報・ウェブ委員会およびグループウェアでの検討を経て，基本方針をまとめました。

第1回広報・ウェブ委員会

日　時：2014年12月21日（日）10:00-12:30

会　場：大学生協杉並会館　2Fミーティングルーム（1）

議　題　1. CIECウェブサイトの見直しについて

2. その他

2. 2015年度活動方針

(1) CIEC ウェブサイトリニューアル基本方針にもとづき，業者選定・委託を通じてリニューアルをすすめる。

(2) リニューアルに伴い，サイト上のコンテンツの充実を図り，事務局や委員会・部会・支部・プロジェクト等による記事の更新についてのガイドラインを整備する。

(3) メーリングリスト等の管理を行う。

(4) 学会のロゴ等のデザインについての検討をすすめる。

(5) そのほか，広報全般，ソーシャルメディア活用についての検討をすすめる。

国際活動委員会

1. 2014年度活動報告

(1) 活動方針：これまでに引き続き，アジア・オセアニアを中心に北米・欧州も視野に入れ，連携可能な海外の学協会やその他組織の情報を収集する。

・活動報告：現在，海外の学協会やその他の組織から，直接情報を収集することはできていないが，研究会・2015PCCでのイブニングセッション企画の開催を通じて，情報収集を行っている。

(2) 活動方針：2013年度に研究会などで共催した「NPO法人理科カリキュラムを考える会」，「日本物理教育学会」など国内の他学会等から国際活動に関する情報を得て，CIECの国際活動を展開する。

・活動報告：平成27年3月21日に開催された「日本教育情報学会 第1回国際交流研究会」に本委員会の委員が参加し，基調講演「欧米における中等教育での情報(科)教育の現状」，「国際比較による情報リテラシー教育の現状と我が国の課題」等の講演から国際活動に関する情報を得た。また，第1回国際交流研究会副会長の加納寛子先生をお招きし，CIEC会員の国際活動を展開するために，2015PCCのイブニングセッション（8月20日）を企画した。企画内容は，以下の通りである。

実施日時：2015年8月20日 木曜日（大会1日目） 18:30- 20:00

タイプの選択：交流型

タイトル：「海外の情報リテラシー教育を通じてみる我が国の課題」

企画概要：山形大学 加納寛子先生を講師としてお迎えし，「国際比較による情報リテラシー教育」に係る現状をご紹介戴き，そこから見えてくる「情報リテラシー」の我が国の問題点

や在り方などについて，参加者との情報教育・意見交換を行う。

(3) 活動方針：会員による国際交流企画についても，支援を行えるよう努める。

・活動報告：2015PCC にて，上記イブニングセッションを企画すると共に，その事前企画として6月6日（土）に国際活動委員会が提案し，第106回研究会を以下に示す概要で開催した。

テーマ：各国に見る教育の情報化と情報教育の動向 - ICT活用による新たな学びの取組 -
日　時：2015年6月6日(土) 13:00 - 15:30
会　場　青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル（大学14号館）9階16会議室
講演・講師
演　題「各国に見る教育の情報化と情報教育の現状」
講師 上松 恵理子 氏（武蔵野学院大学 准教授））
演 題「携帯端末を活用した授業参加の促進と主体的な学び- 青山学院大での実践レポート -」
講師 寺尾 敦 氏（青山学院大学 准教授，CIEC会員）
参加者数　26名

開催にあたり，小中高部会のご協力・ご支援を頂いた。

2. 2015年度活動方針

国際活動委員会のメーリングリスト上で議論を交わし，次の事項を2015年度活動方針とした。

(1)諸外国の学協会やその他組織との連携を探るため，既に調査実績のあるアジア・オセアニアの地域をはじめとし，北米・欧州等の地域も含めた諸外国における ICT を活用した教育を中心とした情報収集ならびに調査研究
(2)CIEC の目指す活動に適う国際交流シンポジウムや研究会の開催に向けた取組活動
(3)会員の海外における情報収集の機会を支援するための支援環境構築に向けた立案企画
(4)その他，本委員会の目標を達成するための事業の推進

研究委員会

1. 2014年度活動報告

今年度は，第103回研究会から第106回研究会までの4回の CIEC 研究会（詳細は，CIEC の Web ページを参照のこと）および，論文投稿と口頭発表が一体となった CIEC 春季研究会 2015 を行った。

(1) 第102回研究会（小中高部会主催）
テーマ「高大接続で繋がる学びとは，何か」
開催日時：2014年6月22日（日）
会場：大学生協杉並会館（参加者数　26名）

(2) 第103回研究会（小中高部会主催）
テーマ「スマートデバイスの教育活用への可能」
開催日時：2014年11月9日（土）
会場：東京学芸大学附属高等学校（参加者数　20名）

(3) 第104回研究会（研究委員会，JEST 研究会 14-5 との連携開催）
テーマ「地域連携と学びへの視点」
開催日時：2014年12月13日（土）
会場：椙山女学園大学星ヶ丘キャンパス（参加者数　41名）

(4) 第105回研究会（小中高部会，教育システム情報学会関西支部，日本情報科教育学会近畿・北陸支部，NPO 学習開発研究所との共催）
テーマ「越境する学び　-不確実・不安定な状況に対応できる学び-
開催日時：2015年1月5日（月）
会場：大阪工業大学　うめきたナレッジセンター（参加者数　30名）

(5) CIEC春季研究会2015
日時 2015年3月28日（土）
会場 大学生協杉並会館（参加者数 35名）

昨年度に引き続き，研究会企画としての春季研究会をおこない，CIEC春季研究会における研究報告を報告集「CIEC研究会報告集Vol.6（査読付き）」として発行した。本報告集には，実践論文3編，萌芽論文 3編，研究速報 5編，の合計 11編の応募があったが，査読を行った上で実践論文 3編，萌芽論文 2編，研究速報 4編，資料 1編の合計 10編が掲載されている。今回の春季研究会2015における発表題目は，下記のとおりである。

・WIKIが支える学び合いによる音声ガイドの作成 -国語教育と鑑賞教育のクロスカリキュラム-
・反転授業の運営と評価の方法 -アカデミックスキル修得のケース-
・一定間隔での操作要求を行うムービー配信サーバを用いた学習者の視聴動向と学習効果の考察
・ICTと電子書籍を活用した効果的な多読の実践方法
・画像処理を用いた双方向授業システム -多選択肢用カードの検討-
・学生への実務教育にシニア技術者の活用とWBTシステムの教材開発について
-アクティブインターンシップの提案-
・プログラミング能力向上を目的としたプログラムテストの学習システム
・学生のプログラミングの素養を調査する手法
・大学における知的財産知識の定着を目指したMoodleを活用した反転授業の実践
・Windows環境におけるEPUBコンテンツ作成の基礎 -教員によるデジタル教材開発にむけて-

(6) 第106回CIEC研究会（国際活動委員会企画）
テーマ「各国に見る教育の情報化と情報教育の動向- ICT活用による新たな学びの取組 -
日時 2015年6月6日（土曜日）
会場 青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル（大学14号館）第9階16会議室
参加者数 26名

2. 2015年度活動方針

2014年度に行った教育工学会など他学会との共催や連携による研究会の実施のように，広く多様な開催方式による研究会も従来の研究会に加えて実施する。このことは，会員へのサービスの充実と共に，他学会などからの会員獲得に貢献できると考える。今年度同様，引き続き春季研究会2016を開催する。また，これまで支部で実施されてきた研究会について，CIEC研究会として一元化していくことを提案する。これによりCIEC研究会の開催回数名の元でデータベース化できるとともに，広く会員に参加を呼びかけることができる。ただし，希望があれば支部として重ねてきた開催回数を併記する。

小中高部会

1. 2014年度活動報告

1. 小中高部会2014年度活動報告
(1) PCカンファレンス2014（札幌学院大学）で，セミナー担当
セミナーのテーマ：高校生に聞く！「こんな情報教育が受けたい」

(2) 研究会（小中高部会主催2回，協力1回実施）
2014年度は，小中高部会の組織やメンバーの協力を得ながら研究会を実施することを目指し，以下の研究会を実施した。

1) 第103回研究会
テーマ スマートデバイスの教育活用への可能性
日 時 2014年11月9日(日) 13:00 - 17:00
会 場 東京学芸大学附属高等学校

2) 第105回研究会 教育システム情報学会関西支部・日本情報科教育学会近畿・北陸支部 共催
テーマ 越境する学び－ 不確実・不安定な状況に対応できる学び －
日 時 2015年1月5日（月） 13:00～16:30

会　場　大阪工業大学 うめきたナレッジセンター

3）第106回研究会 国際活動委員会（協力）
テーマ　各国に見る教育の情報化と情報教育の動向 - ICT活用による新たな学びの取組 -
日　時　2015年6月6日(土) 13:00 - 15:30
会　場　青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル（大学14号館）

2. 2015年度活動方針

・大学入試改革
2015年度入学の中1から実施予定入試改革の動向を探り，初等中等教育への影響と求められる学力を見据え，ICTが支援する学習環境について調査する

・アクティブラーニング
タブレットや電子黒板などのICTを活用したアクティブラーニングの事例が多く報告されているが，アクティブラーニングはICTなしでも実施できるという視点のもと，ICTを活用することの意義と不易な授業方法の実践的研究を共有する

・プログラミング
イギリスでは小学校からプログラミング教育を導入し，日本においても次期指導要領改定では導入される可能性がある。政府が，IT国家の世界最先端を目指していることを鑑み，各国の状況を調査し，単なる言語教育ではなく各教科に落とし込める論理思考を育むプログラミング教育について検討する。

2. 具体的な活動
(1) 研究会の実施（内容は未定だが，3回，東京だけでなく他府県でも開催を検討）
(2) 世話人会の実施（最低，年3回，東京で開催予定）
(3) PCC 2015（富山）への参加・協力
(4) 北海道地区において，PCC北海道などに参加・学習会の実施
(5) 国際活動委員会との連携
(6) 研究委員会との連携
(7) プロジェクトへの協力

外国語教育研究部会

1. 2014年度活動報告

2014年度は，8月のPCプレカンファレンスにて部会企画を組み込めなく，残念ながら実施できなかった。また，秋に予定していた『iBook Authorを使った電子書籍教材作成一日ワークショップ』も諸事情により実施できなかったが，2015年1月11日(日)に林　拓也氏（オーサリング・エンジニア，テクニカルライター）が講師をして，半日のワークショップとして大学生協杉並会館で実施した。参加者は11名と少ない結果となってしまい，広報を含めた参加者募集方法に課題が残った。本ワークショップの詳細については，世話人の一人真崎克彦氏による報告書を参照されたい。

2. 2015年度活動方針

2015年度の活動計画は，8月中旬のPCプレカンファレンスでの部会企画はすでに企画済みで，岩居弘樹氏（大阪大学）に承諾を得て，iPadを活用した外国語学習（仮題）をしていただく予定である。その他の主たる活動としては，会員に有意義なセミナー（案1）や講演会（案2）を1回ずつ実施したいと計画している。

＜案1＞
題名「iPad等のモバイル端末とアクテイブ・ラーニング」
場所：大学生協杉並会館（あるいは世話人所属の大学など）
時期：2015年10月初旬ないし11月初旬
概要：iPad等のモバイル端末を参加者に持参してもらい，アクテイブ・ラーニングの実践者数名による教育実践例の紹介やアプリケーションの活用事例を中心としたセミナーを実施する。各自の外国語教育・学習の事例報告後，言語別の小グループに分かれて，あるいは全体で討議する。

＜案2＞
題名「小学校から高等教育機関までの外国語教育の接続：ICTがどのような役割を果たせるか」
場所：立命館大学琵琶湖草津キャンパス（あるいは大学コンソシアム京都あるいは世話人所属の大学など）
時期：2016年4月下旬あるいは5月下旬
概要：2020年度からの小学校の外国語活動(あるいは，外国語)の教科化に鑑み，ICTが小学校から高等教育機関までの外国語教育の接続にどのような役割をしているのか，講演と質疑応答をする。

生協職員部会

1. 2014年度活動報告

(1) 研究会／企画

2014年8月　PCカンファレンス　セミナー3開催
テーマ「高校の情報教育」～「大学入学時のメディアリテラシー教育」にギャップはあるのか？
－高校生から見て，大学生から見て－

高校・大学の正課のICTを活用した授業・講義とは異なるアプローチから学びの場に関わりを持っておられる3団体5名の方から報告をいただき，高校～大学の「時間軸」と「正課学習と自学・課外学習」の2軸で報告者それぞれが関わる学びの場の位置を明確にしたうえで，「高校の授業と大学の講義の間で学習者となる学生自身が，ネットワークメディアの利活用を含むアカデミックリテラシーとして求められるものに違いを感じているのか？」という問いに対する課題点や問題点を考えることを目的に開催した。

3団体の活動において，Manaveeは「大学受験を目指す高校生に対して受験勉強」の場面を，名工大生協パソコン講習会は「大学の新入生に対して自大学での大学生としての学び」の場面を，日本hpと立教大学は「大学生に対して企業・社会との関わり」の場面を提供している。それぞれの学習者に対して，より具体的なICT利活用の場面・環境を提供することで，それぞれの目標達成に向けてICTが積極的に活用されている現場からの報告および提言となった。

高校から大学への進学による環境変化の中で，求められるアカデミックリテラシーに違いがあるのかを考え，正課とは異なるアプローチで活動されている方々の報告を受けて，どのようなICT教育・学びをつうじてその違いが解消されるかとの議論を想定していたが，実際には違いそのものを議論することではなく，学習者がより具体的な目標に向けて，ICTを利活用する場面・環境（コンテンツ）に接する状況になった際に，学習者が自ら高校と大学で違いを乗り越えようとしている姿が3団体の報告から明らかになった。

今セミナーを終えて，「学習者はそれまでに学んできたICT利活用方法の延長ではなく，高校生・大学生として，自らの目標や社会生活との関わりの中でこそアカデミックリテラシーを習得していくのではないか」という仮説を元に，今後もとりくみの交流と議論をすすめていきたい。

(2) 世話人会（関東世話人会計7回実施）

2014／1／28 （関東）	PCカンファレンス2014	企画討議打ち合わせ
2014／5／21(関東)	PCカンファレンス2014	企画討議打ち合わせ
2014／7／30(関東・杉並)	PCカンファレンス2014	企画討議打ち合わせ
2014／8／6(関東)	PCカンファレンス2014	セミナー登壇者打ち合わせ
2014／8／26（関東・杉並）	PCカンファレンス2014	セミナー総括打ち合わせ・次年度に向けて
2014／12／20（関東・杉並）	PCカンファレンス2015	打ち合わせ
2015／3／5（関東・杉並）	PCカンファレンス2015	セミナー案打ち合わせ
2015／5／19（関東・池袋）	PCカンファレンス2015	セミナー企画討議打ち合わせ
2015／5／20（関東・杉並）	PCPカンファレンス2015	セミナー企画打ち合わせ

2. 2015年度活動方針

(1) アカデミックリテラシーの一部であるコンピュータリテラシーの教育において，学生とともに生

協がその一翼を担っているパソコン講座の研究。学生同士の学び合いや経験を継承する場としてとらえ，それぞれの現状と変化について継続的調査を行う。

(2) 大学入試をはじめとした2020年問題を目前に控え，大学を取り巻く環境を知り，大学生になる高校生がこれからどのようなICT教育を受けて大学入学してくるのか調査・報告を行い，生協職員・大学生協としての関わり方を研究する。

(3) 上記，1，2の活動を通じて生協職員のCIEC会員の増加につとめる。

北海道支部

1.2014年度活動報告

CIEC北海道支部では，例年開催しているPCカンファレンス北海道を開催せず，札幌学院大学を会場に行った全国大会である「2014PCカンファレンス」の運営に北海道内各地の会員が実行委員として積極的に関わった。また，Apple Storeを会場に行なっている「教育の玉手箱シリーズ」を3回実施し，新たな会員を増やすことができた。

具体的な活動は下記の通りである。

(1)2014PCカンファレンス（札幌学院大学）

テーマ　「地方」教育の未来を創る
日　時　2014年8月8日(金)～8月10日(日)
会　場　札幌学院大学

北海道地区会員の協力を得て実施された企画は次の通り

1) プレカンファレンス2：JMOOC講座ワークショップ「オープンエデュケーションを創って学ぼう」
2) シンポジウム1：「地方におけるICT教育と授業活用　～北海道を例として～
3) イブニングセッション：デジタル教科書の匠になろう　－自作デジタル教科書の現状　－
4) セミナー1：高校生に聞く！「こんな情報教育が受けたい」

(2)学校の玉手箱（アップルストア札幌にて）

1) 学校の玉手箱Vol.23：2014年5月25日（土）6:00 p.m. - 7:00 p.m.
「iPadでマインドマップ：高校生を対象にした進路指導実践報告」
頭の中の考えを目に見えるように書き出して整理する思考ツール，マインドマップ。世界中で様々な用途に利用されているこのツールは，教育の場でも活用できる。このイベントでは，iPadとマインドマップ・アプリケーション「iMindMap」を使った進路指導の取り組みと，高校の教育現場におけるマインドマップ以外のiPad活用事例も紹介した。
報告者：芦澤満氏（白樺学園高校），曽我聡起氏（千歳科学技術大学教授）（参加者，10名）

2) 学校の玉手箱Vol.24：2014年12月6日（土）5:00 p.m. - 6:00 p.m.
「IT立国フィンランドと観光情報：国際IT教育学会EdMediaに参加して」
2014年6月，フィンランドのタンペレ市で開催されたIT関連の国際学会EdMediaにCIEC北海道支部の川名，曽我両氏が参加した。フィンランドは教育とIT双方の分野で世界のトップをいく国である。EdMEdiaの会場ではApple製品が多数利用され，iPadなどを教育に用いた事例発表なども多数あった。また，フィンランド内の至る所でApple製品を利用する観光客の姿が多数あった。現在日本では2020年の東京オリンピックに向けて観光関連の動きが活発である。今回のフィンランド訪問で見られた様々なIT活用，旅行に役立つiOSアプリ情報などを中心に，大学生や教育関係者，観光関係者を対象に報告した。
報告者：川名 典人氏（札幌国際大学），曽我 聡起 氏（千歳科学技術大学）
司　会：高瀬 敏樹氏（札幌旭丘高等学校，参加者15名）

3) 学校の玉手箱Vol. 25：2015年1月10日（土），1:00 p.m. - 2:00 p.m.
「Appleの新しいプログラミング言語Swiftの魅力と可能性」
iOSとMac向けのアプリケーションを開発するためにAppleが作った新しいプログラミング言語，Swift

を紹介した。有限会社快技庵の高橋政明氏が，Swift の特徴，魅力，可能性などを解説。Java 言語などに造詣の深い山川広人氏と共に，大学におけるこれからのプログラミング教育や社会が求めるプログラミングスキルなどについてトークショー形式で語りあった。司会は曽我 聡起氏（千歳科学技術大学，参加者 15 名）

4)学校の玉手箱 Vol.26：2015年5月16日（土），1:00 p.m. - 2:00 p.m.
「iBooks Author で作るデジタルハンドアウト：活用事例と応用」
iBooks Author を使えば、iPad 用のデジタルハンドアウトを簡単に作成することができることから，大学教育現場の最新の活用事例や，iBooks Author の拡張機能の HTML ウィジェットを使って出版や LMS(学習管理システム）と連携する応用事例を紹介した。
報告者：川名典人氏（札幌国際大学），中村泰之氏（名古屋大学大学院），中原敬広氏（合同会社三玄社）司会：曽我 聡起氏（千歳科学技術大学）

(2)研究会
テーマ「北海道における ICT 利活用教育の取り組み－　遠別町の事例紹介　－」
日時 2015年6月20日
会場 札幌学院大学

2. 2015年度活動方針

PC カンファレンス北海道 2015 の開催を中心として，研究会，学校の玉手箱の開催を予定している。また，他学会の北海道支部との連携による企画を検討する。

九州支部

1. 2014年度活動報告

2014年度の九州 PC カンファレンスは，11月8，9日に大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学（APU）で，テーマを「おんせん県おおいたで考えるグローバル教育」として開催された。基調講演「大学に求められるグローバル人材の育成と新しい動き」ならびにシンポジウム「グローバル教育の諸相：立命館アジア太平洋大学での実践報告から」は大学教育の情勢の中で時宜を得たものであり，パネリストとして留学生 2 名が登壇するなど，APU ならではの内容で参加者に好評であった。分科会は 3 つに分かれ，第 1，第 2 分科会では九州外からの発表 1 本を加えて 10 本の発表があった。第 3 分科会は，大学生協のパソコン講座に関わる学生と生協職員が多数参加し，CIEC 九州支部「情報生活サポート研究会」とのコラボレーションで，大学生協の教育的活動を教育的にさらに深める機会となった。

2. 2015年度活動方針

九州 PC カンファレンスは，11月7，8日に琉球大学で開催する予定で準備を進めている。九州では PC カンファレンスを，ICT 教育について学ぶ場としてだけではなく，語学教育，協同組合活動，平和など，さまざまな学びの場と捉えており，沖縄ならでの学びの機会が得られるものと期待されている。情報生活サポート研究会は，学生の情報生活サポートをテーマとした研究を継続するとともに，電子書籍を中心とする教育の電子化の流れの中で，学びの本質を追及する。
その他の支部活動についても，九州 PC カンファレンスなどの会員交流機会を活かして模索する。

2014 年 7 月
1 火　2014 年度・2015 年度（2014 年度社員総会から 2016 年度社員総会）役員選挙電子投票受付
15 火　役員選挙電子投票締切
17 木　選挙管理委員会（会場：大学生協杉並会館）
18 金　監事会（会場：大学生協杉並会館）
21 月　2014PC カンファレンス 高校生ポスター発表募集締切
30 水　生協職員部会世話人会

2014 年 8 月
6 水　生協職員部会世話人会
7 木　2014PC カンファレンス第 2 回実行委員会
2013 年度第 5 回 CIEC 理事会
8 金　2014PC カンファレンス(札幌学院大学) テーマ「「地方」教育の未来を創る 」
9 土　2014PC カンファレンス(札幌学院大学)
2014 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会
2014 年度第 1 回 CIEC 理事会
第 61 回会誌編集委員会
小中高部会世話人会
10 日　2014PC カンファレンス(札幌学院大学)
11 月　CIEC 専門委員会委員募集開始
26 火　生協職員部会世話人会
31 日　CIEC 専門委員会委員募集締切

2014 年 10 月
6 月　ドイツブックフェア視察（6 日～13 日）
26 日　三役会議

2014 年 11 月
9 日　CIEC 第 103 回研究会（東京学芸大学附属高等学校）
「スマートデバイスの教育活用への可能性」
10 月　CIEC 春季研究会 2015　研究報告募集開始
16 日　第 62 回会誌編集委員会

2014 年 12 月
6 土　学校の玉手箱 Vol.24
「IT 立国フィンランドと観光情報：国際 IT 教育学会 EdMedia に参加して」

13 土　CIEC 第 104 回研究会（椙山女学園大学星ケ丘キャンパス）JSET 研究会 14-5 との連携開催
「地域連携と学びへの支援」
18 木　CIEC 春季研究会 2015　研究報告募集締切
20 土　生協職員部会世話人会
21 日　三役会議
2014 年度第 2 回 CIEC 理事会
広報・ウェブ委員会

2015 年 1 月
5 月　CIEC 第 105 回研究会（大阪工業大学 うめきたナレッジセンター）
「越境する学び － 不確実・不安定な状況に対応できる学び － 」
共催：教育システム情報学会関西支部，日本情報科教育学会近畿・北陸支部，
NPO 学習開発研究所
10 土　学校の玉手箱 Vol. 25
「Apple の新しいプログラミング言語 Swift の魅力と可能性」

11 日　CIEC 外国語教育研究部会第 7 回学習会（大学生協杉並会館）
「iBooks Author ワークショップ」
外国語部会世話人会

2015 年 2 月
20 金　2015PC カンファレンス分科会論文募集開始
22 日　2015PC カンファレンス第 1 回実行委員会（大学生協杉並会館）
23 月　三役会議

2015 年 3 月
5 木　生協職員部会世話人会
28 土　CIEC 春季研究会 2015
29 日　2014 年度第 3 回理事会
第 63 回会誌編集委員会
小中高部会世話人会
31 火　2015PC カンファレンス分科会論文募集締切

2015 年 4 月
2 木　2015PC カンファレンス第 2 回実行委員会（富山大学）
12 日　PCC 分科会時間割編成会議（大学生協杉並会館）

2015 年 5 月
16 土　学校の玉手箱 Vol.26
「iBooks Author で作るデジタルハンドアウト：活用事例と応用」
17 日　三役会議
19 火　生協職員部会世話人会
20 水　生協職員部会世話人会

2015 年 6 月
6 土　CIEC 第 106 回研究会（青山学院大学　青山キャンパス総研ビル）
「各国に見る教育の情報化と情報教育の動向 － ICT 活用による新たな学びの取組 －」
7 日　三役会議
2014 年度第 4 回理事会
13 土　2015PC カンファレンス第 3 回実行委員会（富山大学）
20 土　CIEC 北海道支部第 8 回研究会（札幌学院大学）
「北海道における ICT 利活用教育の取り組み－ 遠別町の事例紹介 －」